

Causes of ischemic stroke in young adults versus non-young adults: A multicenter hospital-based observational study

大屋, 祐一郎

<https://hdl.handle.net/2324/6787467>

出版情報 : 九州大学, 2022, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : © 2022 Ohya et al. This is an open access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License.

(別紙様式2)

氏名	大屋 祐一郎
論文名	Causes of ischemic stroke in young adults versus non-young adults: A multicenter hospital-based observational study
論文調査委員	主査 九州大学 教授 二宮 利治 副査 九州大学 教授 磯部 紀子 副査 九州大学 教授 吉本 幸司

論文審査の結果の要旨

若年成人と非若年成人の虚血性脳卒中の病型を比較した研究はほとんど報告されていない。そこで、わが国における脳卒中を対象とした大規模多施設共同研究の成績を用いて、若年成人と非若年成人の間で虚血性脳卒中の各病型の割合を検討した。

本研究では、2007年から2019年の間に急性虚血性脳卒中のため入院した18歳以上の患者15,860名の連続症例(平均年齢:73.5±12.4歳、男性:58.2%)を対象とした。このうち18歳-50歳の若年成人は779名、51歳以上の非若年成人は15,081名であった。若年成人における高血圧、糖尿病、脂質異常症の有病率は、非若年成人に比べ有意に低かったが、40歳以上の若年成人と非若年成人の間に糖尿病と脂質異常の有病率に有意な差を認めなかった。一方、若年成人における喫煙、飲酒、肥満の頻度は、非若年成人と比べ有意に高かった。若年成人の中では、年齢が上がるほどその他の原因による脳梗塞と心原性脳塞栓症の割合は減少し、大血管アテローム硬化と小血管閉塞の割合は増加した。一部の塞栓源(高リスク塞栓源:心房粘液腫、拡張型心筋症、心臓内血栓、中リスク塞栓源:心房中隔欠損症、非細菌性血栓性心内膜炎、卵円孔開存、左室壁低運動)と稀な原因(血管疾患:可逆性脳血管攣縮症候群、もやもや病、その他の血管疾患、動脈解離、脳静脈血栓症、血液疾患:抗リン脂質抗体症候群、プロテインS欠乏症)は、非若年成人より若年成人でその割合が高く、かつ加齢に伴いその割合が減少していた。このように、特定の塞栓源や稀な原因は、若年成人の虚血性脳卒中の原因として重要であった。さらに、若年成人であっても高血圧や糖尿病などの既存の心血管危病の危険因子の関与は無視できないといえよう。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがほぼ適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士(医学)の学位に値すると認める。